

■豪州：南オーストラリア州の世論調査で原子力賛成が多数

2014年4月7日の報道によると、南オーストラリア鉱山・エネルギー会議所（South Australian Chamber of Mines and Energy: Sacome）の委託によって市場調査会社 ReachTel が実施した世論調査によると、南オーストラリア州の住民 1,216 人のうち 48%が原子力利用に賛成、33%が反対であった。Sacome の会長は「本調査のカギとなるのは、原子力に強く賛成する割合が 29%、強く反対が 20%で、断固とした原子力賛成派が、原子力反対派を上回ったことである」と述べた。また、63%が原子力は気候変動に重要な役割を果たす、または、選択肢として考慮すべきと回答した（反対派 35%）。南オーストラリア州でのウラン採掘には 55%が賛成、25%が反対である。Sacome の会長は「南オーストラリア州住民は、原子力の可能性を認めており、少なくとも将来の利用を政策課題に取り上げる必要がある」との見解を示した。